

私の目指す林業
- 遊び心で 楽しい 夢の山づくりを -

石川県の林業の現状とその実態（問題点）

（１）現状

- ・ 外材の 80% にも及ぶ大幅輸入
- ・ 日本経済の不況と需要量の減少
- ・ 材価の下落低迷と生産コストとのギャップ
- ・ 建築様式の変化と代替製品の進出
- ・ 若年就労者の減少と現場労務の高齢化

（２）問題点（石川の林業よいずこへ）

戦後以来、石川県内において約 10 万ヘクタール（全国の 1/100）の造林が進み、緑の山々が確保されたものの、今日的な上記理由にて「こんな報われない林業をやっておられん」と山離れし、今日に至っている。

森林の公益的機能（県内 1 兆 1 3 5 0 億円の効用）

効用

- ・ 木材の生産活動（人工林、天然林）
- ・ 水源かん養（渇水並びに洪水緩和調整作用）
- ・ 山地災害の防止（土砂の崩壊、流出、なだれ、落石防止）
- ・ 保健文化

こうした公益的機能効果を発揮するには、そこに健全な森林の育成がなされていなければならない。それには、「確かな森や緑の守り手」が絶対必要不可欠条件となる。

森林の機能麻痺事例
奥能登襲撃大水害事故

昭和31年、33年、34年と3年連続集中発生

要因

- ・戦時中の強制伐採による過伐
- ・戦後復興期による住宅新築ブームによる需要

林地はこうした極度の伐採により、造林はされていたものの、若齢林であり保水能力が低く、対応限界に達した。

サラリーマン林業（日曜林業）の構築で石川の林業の未来展望
利益追従型林業の発想から「遊び心で もっと楽しい 山づくり
の夢を！」

結びにかえて

- ・木材は外国からどれだけでも自由に購入可能な時代
- ・森や緑を輸入し、国土保全することは絶対不可能
- ・山が緑化されたとて安全ではない
- ・「林」の健全度こそ重要である
- ・山は、山林所有者個有の所有物との認識から、国民、県民、市民一人ひとりのものとの認識の時代に

珠洲漁業士会と「いしかわ漁民の森づくり運動」

珠洲漁業士会

- ・ 設立年月 平成 1 1 年 7 月
- ・ 設立当時の会員数 1 4 名
賛助会員 4 漁協
(珠洲中央漁協、蛸島漁協、宝立町漁協、内浦漁協)
- ・ 平成 1 6 年 4 月現在の会員数 1 8 名
賛助会員 2 漁協 (すすし漁協、内浦漁協)
珠洲市内の 3 漁協が合併

森づくり運動

- ・ 平成 8 年 9 月に開催された「全国海づくり大会」を契機に、珠洲市の漁民が珠洲県有林（珠洲市片岩町地内）の「いしかわ漁民の森」に、ケヤキ 6 0 0 本を植栽。
- ・ 「いしかわ漁民の森」の 1 回目の下刈りを平成 1 1 年 1 0 月に実施。以降 毎年 1 0 月に下刈り実施

【平成 1 5 年度活動実績】

- ・ 平成 1 5 年 6 月 漁業士会総会
- ・ 平成 1 5 年 7 月 石川の森づくり推進協会の珠洲地区育樹活動に参加（石川の森づくり 2 0 0 3 ）
- ・ 平成 1 5 年 7 月 会員による漁港清掃（海の日）
- ・ 平成 1 5 年 1 0 月 「いしかわ漁民の森」で下刈等の育樹活動